

レアース開発

Sea sola をエネルギー源とし
24時間AI全自動操業にて中
国よりも低コストをめざす。

(P6)

日米協同の世界制覇戦略

平和利用やカーボンニュートラルの為にやっているとみせかけ、システム維持の為に人員を派遣し、世界の至る所で展開することで、日米共同での世界制覇を達成する。世界の秩序を守りながら、同時にカーボンニュートラルも達成する。

平和利用：領海内に侵入してきた敵戦艦・潜水艦のみを攻撃する為の指令基地を尖閣諸島に設置する。

(P7)

全エネルギー
Sea sola
City sola

https://ipforce.jp/patent-jp-P_B1-7486247

https://ipforce.jp/patent-jp-P_A1-2026-6721

専守防衛システム

「Sea sola」

ダム湖を含む湖や海で、木造人工島を浮べ「ツリー型太陽光発電機」を設置、太陽光を遮る障害物が少なく、水面からの乱反射光や全反射光をも使い高効率

「City sola」

庭や空き地、駐車場や農地、家屋（収納部が高いところに位置しているので、場所を併用できる）等のありとあらゆる場所に設置でき、電柱に代わる街の風

日米台AI無人潜水艦&ドローン
地下核シェルター共同司令基地

防人のイメージ

木造人工島の ブルーカーボン

竹島



日米韓ブルーカーボン
共同開発研究センター

竹島全体を覆うように、沿岸部には木造人工島のブルーカーボンを設置する。(P3)

竹島を皮切り
に世界の沿岸
部に展開する

屯田兵のイメージ

一方的な観光開発や軍事基地化だと反発が強いので、竹島の周辺部全体を、CO2を吸収してくれる「木造人工島のブルーカーボン」で覆い、日米韓の共同出資（主に研究センター）なので、韓国国民にも自然と受け入れられ、日本が「木造人工島のブルーカーボン」の製造元受けになり相対的に出資比率を上げることで、日本国民も高市総理のバランスの良いリーダーシップぶりに、満足感が得られものと考えています。

尖閣諸島の地下基地に核攻撃にも耐えられる司令部を置く、専守防衛システム

住民を巻き添えにする可能性のある、敵の先制攻撃の対象となるミサイル基地等の攻撃的な軍事施設ではなく、単に海域を守るために、超大型潜水艦とそこに数多くの戦略ドローンを搭載し、そして核攻撃にも耐えられる地下指令室を、日米台で協力して尖閣諸島に設定する。

領海内に侵入をしてこなければ何も起らない)平和利用目的で、しかも米軍主導となれば、中国からの反発も弱く、また尖閣諸島が将来的に日本の領土として世界的に認められていくと考えています。

注:超大型の潜水艦と搭載の数多くの戦略ドローンは、高度にAI化されており、指令室VS大型潜水艦VS数多くの戦略ドローンはAI同士が互いに連絡を取り合うものの、勝手に攻撃されても困ることがあるので、あくまでも攻撃命令は、指令室が作戦本部(高市総理)からの指示を得て行うことを厳守する。

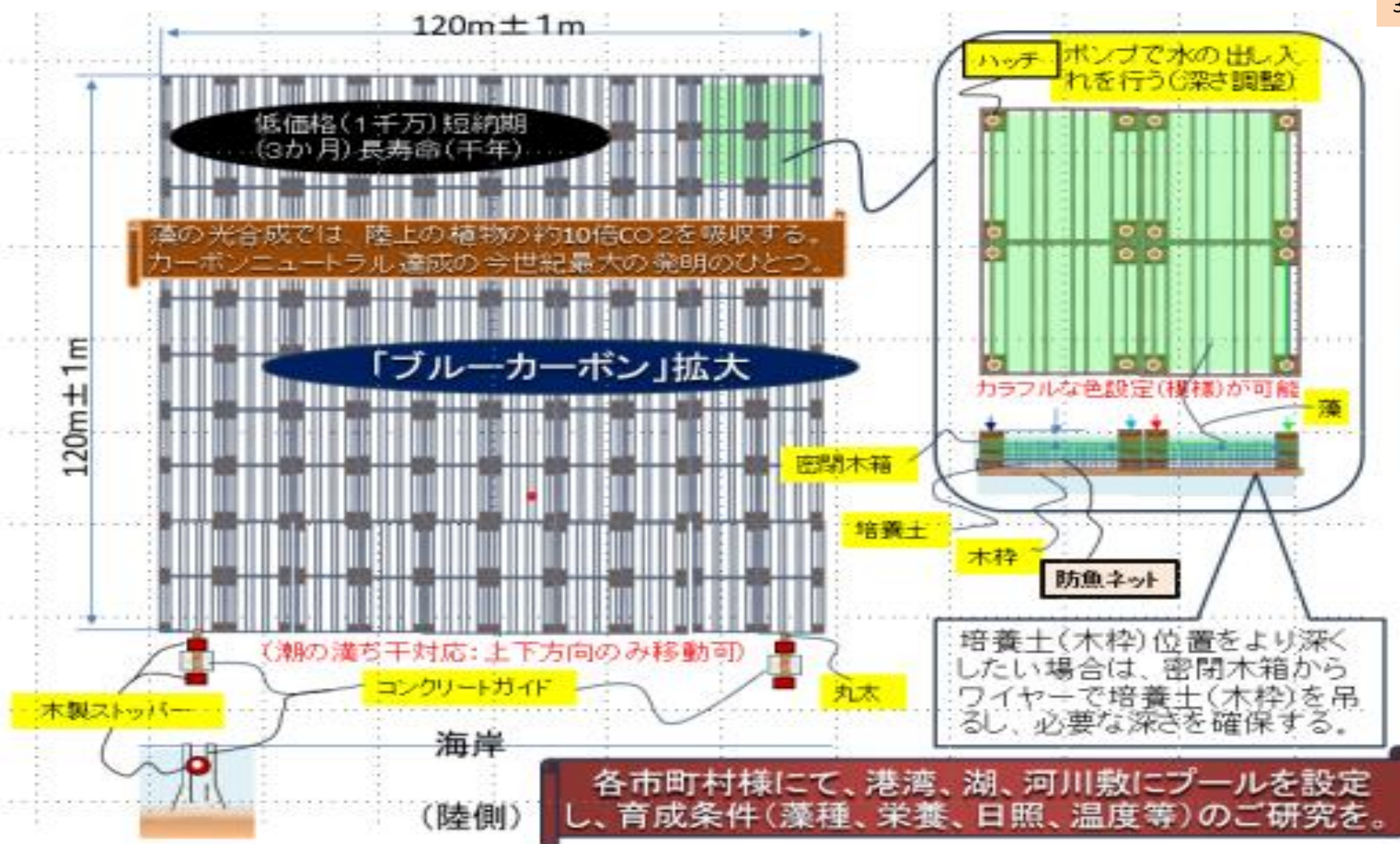
「ツリー型太陽光発電システム」「Sea sola」&「City sola」の設置が簡便で、低コスト・(頻繁な清掃やメンテナンスは必要ながら)長寿命(コーティング技術で法隆寺以上)なので、木造人工島のブルーカーボンとともに、日米が協力して、世界普及を目指し、同時に中国が主導(*)している環境破壊のメガソーラを駆逐したらよいと考えています。

(*)ウイグル自治区の強制労働により不当に安く製造し、パナソニックや日立等の日本勢は撤退を余儀なくされ、中国系企業による土地の買収、熱海での盛り土・土石流の発生、釧路湿原等の環境破壊&景観破壊を引き起こしている。

レアアースを含む日米共同開発
(AI全自動化に向けた予算配分)

レアアースについて、日米共同開発が決まりましたが、莫大な初期費用がかかりますが、AIを駆使し、24時間全自動操業できるようにすれば、中国産のレアアースよりも(初期投資は莫大ながら)安く、日米だけではなく、広く世界に供給できるシステムの技術になるのではないかと考えています。

以上を極東だけでなく、グリーンランドを含む数多くの地域で、日米が共同で進めることで「見かけ上は平和利用・カーボンニュートラル達成」のために、ですが、屯田兵的な考え方で、木造人工島のブルーカーボンやツリー型太陽光発電の専門技術者という肩書ながら、一方で情報収集をし、平和維持用員としても活動をするようにしたらよいと考えています。



木製のアングルを組んで、その上にシートを敷き、藻を養殖するための培養土を乗せ、周辺4か所に浮力を保つための密閉木箱を設定する。

尚、密閉木箱の上部には、ハッチ(蓋)を設定し、又ポンプを固定できるようにし、ポンプによる海水の出し入れで、深さ調整(光合成が最も効率よく行われる位置に設定)が可能です。

システムとしての付加価値が高いので国産のパネルを使う



ジャパニーズ
スタイル(縦形)



洋上ツリー型では、このあたりが100~120%(海面からの反射光を含む)で推移するので、4倍程度のは発電量が見込まれる。

100%

70%

垂直入射を100%とした場合の、
入射角度による発電量の低下度

45%

25%~0% (山や建物に隠れて
しまう可能性有)

AI太陽光自動追尾

木造人工島

朝日夕日の水面の全反射光も使う

洋上湖上ツリー型太陽光発電システム

地球

洋上では、(全)反射光や乱
反射光も受光するので、両面
に太陽光パネルを設置する。

収納BOX(夜間強風時は
パネルを下げ収納する)

太陽光パ
ネル

太陽光パ
ネル

洋上では障害物がなく、朝日と
夕日のぎりぎりまで発電が可能。

洋上では土台を必要とせず、木造人
工島の木枠に固定するだけでよい。

乱反射光

全反射光

メンテをしながら
千年維持

密閉木箱(液体
ガラスティング)

土台不要

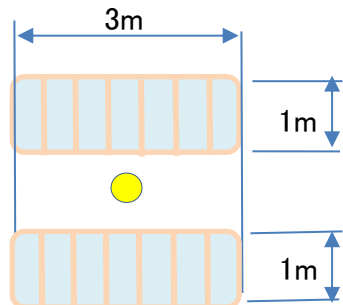
木製ベアリングホルダー
(液体ガラスコーティング)

Sea sola

地産地消型家庭用ツリー型太陽光発電システム

City sola

平面図



ペロブスカイト&軽量木製フレーム

木製フレームは、コーナーを丸めて、強風で飛ばされて、人にぶつかっても、大けがをしないように配慮をする、

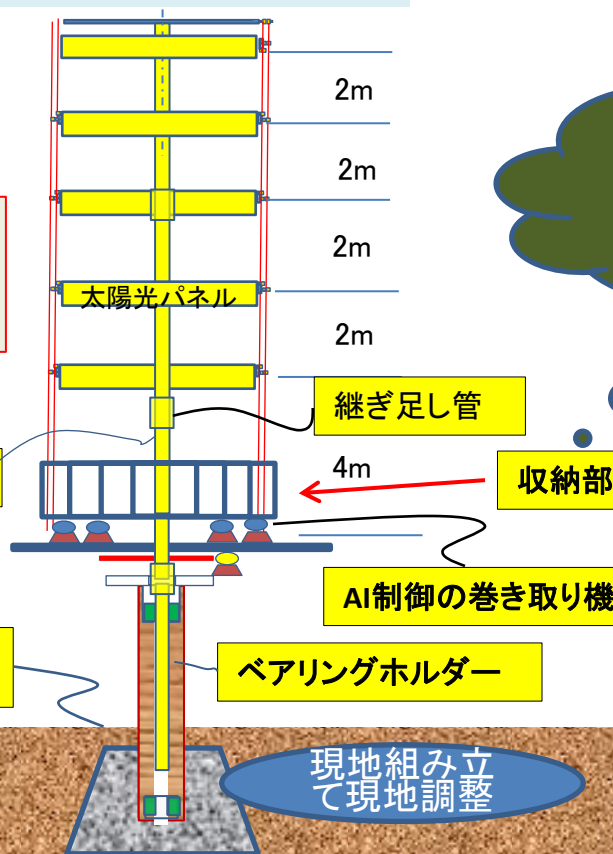
下側スペースは
駐車場や畑・花壇・
庭や通路として、
有効に使える

ウクライナ復興支援として有効
(ロシアの攻撃でほとんどの発電
所が破壊された。)

大地震で停電&水道が止まっても、ヘリで材料を運び、現地で組み立てれば、半日程度で、飲料水と電気が使えるようになります。

雪・強風・砂嵐・地震に強い・設置撤去が簡単・家のすぐ近くに設置・清掃・メンテナンスがラク・環境破壊がない

パネル総面積: $3\text{m}^2 \times 10 = 30\text{m}^2$



北海道・ウクライナ等の比較的緯度の高い地方仕様: 3~5軒分

総額約1千万と想定: 4軒分として、一軒当たり: 約250万

一般的な家より高いところで発電・屋根より低いところで安全に収納

家のイメージ
(大きさ比較)



付属として、AI搭載のPC、監視カメラ、蓄電池、長雨や故障対応として発電機飲料水用の「大気水装置」があるとよい。

スマートホンアプリで、マニュアル操作を可能とし、メンテナンス時や清掃を行うときに使用する。

レアアース24時間自動採掘・精錬システム

中継滑車経由で巻き取る

超大型スライド機構付き巻き取り機
回転エンコーダー付き X3

第一ステップとして、日米共同
研究所の設置：
(研究員公募)

AI精錬工場

中継滑車X3

リニアエン
コーダー(X3)

自動搬送ロボット

Sea sola

太陽光パ
ネル

太陽光パ
ネル

太陽光パ
ネル

木造人工島

密閉木箱(浮力)

採掘ロボット

複数のカメラ・LEDライト、ドリル、スコップ、
貯蔵機能があり、AIがカメラ映像を見な
がら採掘の指示を出す。
(必要に応じ種々の機能を付加する、)

ワイヤー&電源通信ケーブル

ワイヤー

位置固定ロッド

ワイヤーに対し電源・通信
ケーブルは余裕をもたせる

超大型スライド機構付き巻き取り機の重量は、
巻き取り量により大きく変化するので、その部
分を支える「木造人工島を別ユニット化」して、
数m～数十mの高低差を考慮した構造とする

日米が共同開発し、世界中の海洋資源を採
掘るために、ありとあらゆる場所に設置し、また
日米の維持・メンテナンス技術者を派遣し、彼ら
には情報収集要員としても活躍していただく。

AI大型潜水艦 & AIドローン集団戦略の時代

ドローン集団によるミツバチ作戦：囲って攻める。

戦艦大和が無数の戦闘機で撃沈させられたように、90%のドローンが撃墜されても、残りの10%が目的を達成する。

AI自律ドローンを大量に搭載した超大型自律AI無人潜水艦。

尖閣諸島の地下核シェルター・AI無人潜水艦・ドローン司令室

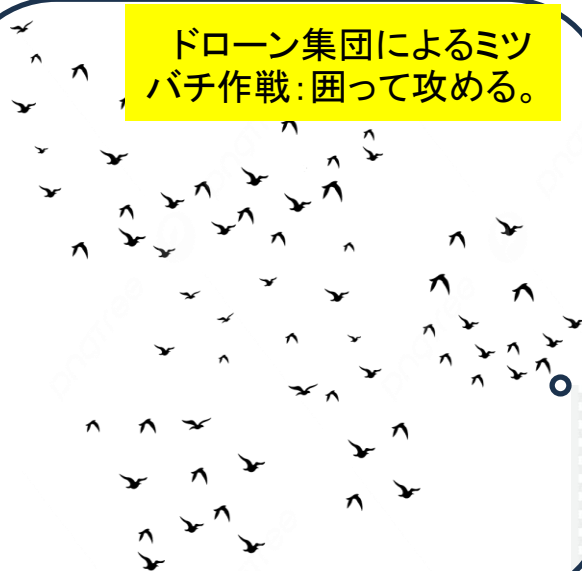
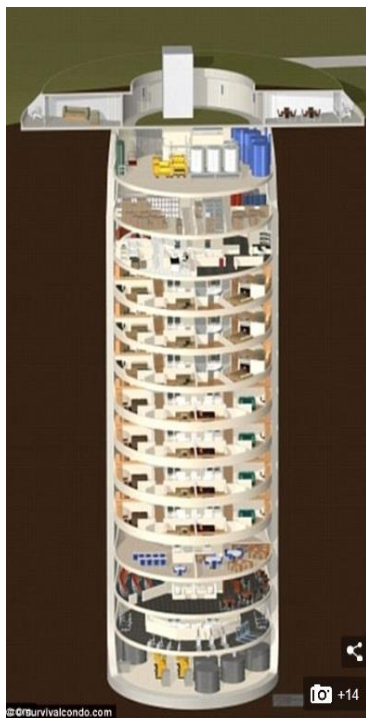
武器の到達点

司令室・各潜水艦・各ドローンのAI同士が連絡を取り合い作戦を遂行するが、攻撃命令は指令室の人が行う。一旦攻撃命令が出されれば小野田少尉のごとく、とことん自爆を含めて戦いぬく。

武器の変遷

自由視点映像とは、複数のドローからの映像をもとに、司令室のAIが作成する、どの角度からでも見れて、ズームも可能なシステム。

地上部隊が海を渡ってこなければ怖くない。領海内を守ればよい。(ソルジャーブーツを防止する。)



＜2040年頃CO2実質マイナスのイメージ＞

